

晉

報

II

1 9 3 5

一、談話會報告要旨

昭和九年度

昭和九年十月六日（第三回）

1. 越後に於ける出稼の地理的要因に就て、
土田英夫
- 要旨 追つて地理論叢に發表の豫定

2. 清水港と沼津港

山口平四郎

駿河湾内の代表的商港としての清水と沼津との簡単な比較である。この二港は清水が駿河湾の北西隅、沼津が北東隅にあり位置の上からしても對蹠的である。そして前者が三保砂嘴に抱かれた風波穏やかな天然の良港なるに反し、後者は狩野川下流右岸を利用した河口港であり、河水の廣うす土砂と、冬季の卓越西風との影響で船舶の出入に不便である。かゝる自然的條件の差異に次いで、両港の地理的位置にも大なる径庭がある。清水は直接背後に縣の首都静岡市を擁し、静岡市を中心とする生産力消費力大なる人口稠密地帯に圍繞され、且つ

貿易港として廣く海外並に本邦各地方と航路によつて連絡されてゐる。然るに沼津は、その東南方一帶に山がちな伊豆半島を繞らし、背域の生産力も消費力も到底清水に及ばざるのみならず、その水上運輸の側から見ると純然たる地方港である。外國貿易に従事せざるのみならず、その航路は殆んどすべて伊豆半島の諸港との間に結ばれてゐるにすぎない。最後に函港を中心とする貨物運輸の型式は最も著るしい對照を示してゐる。一概に云へば清水の内外貿易は一にその背域に依つて存立する。その輸移出品の悉くは清水市の工業原料品乃至は背域たる靜岡縣の需要貨物であり、輸移出品の悉くは清水市内の工業製品乃至は直接背後の地帯の産する農産物である。之に反し沼津の移出品は概ね京浜地方から伊豆半島西岸に向け鐵道によつて輸送されたものであり、その移入品は魚類及び伊豆半島の産物で、之は京浜地方に鐵道で輸送される、つまり伊豆半島の島嶼性が京浜地方との貨物取引の中継地として沼津を存立させてゐる傾向が強い。

3. 南洋視察談

瀧 永 貞 一

昭和九年夏のジャヴァ視察旅行のお話である。

七月廿二日神戸出帆、マカッサルを経てジャヴァに向つたが、同船者中にジャヴァ通が居り、種々の豫備知識を得るに便利であつた。

南洋の土人の赤坊の色は日本人と変りはないが、齡をとるに従つて黒くなる。冠物^{カウリ}はターバンと云ひ、布を巻く。女はサロンと云ふものを腰に巻いてゐる。

土人は食物を指で掴んで喰べる。彼等は一十日銭あれば生活出来る。彼等は左手を不淨なものとし、目上に對しては左手を出したり、物を受けたりしない。白人・日本人は電燈を使ふが、土人はランプを用ひる。

道路を造る事はオランダ人の植民政策の一つで、實に立派な道路が出来てゐる。

土人の部落で注意すべきはパッサールといふ市場のある事である。即ち彼等は定期市商業を脱してゐない。マカッサルの如き大きな町ではパッサール・マラムと云ふ共進會の如きものが年に一回、半月間夜間に開かれる。改人・日本人は四十セント、土人は十五セントの入場料をとられる。

民家は、其の構造は日本の神社に似、但し干木がない。壁は全部竹、屋根は

椰子の葉で葺く・聚落は普通散村であるが、海岸は集村である。家の周囲には菜園の代りに椰子、バナナがある。家畜は縁下で飼ひ、水牛が多く、豚が少しもない。これは回教の影響である。交通機関は馬車、バスが盛である。

次にスラバヤの町で注意すべきは、港・商業街・住宅街と順序よく並び、町の中央には河が流れ、此の河で土人はマンデイと云ひ一日数回水浴をする。これはスラバヤのみならず他の町でもかゝる形式をとる。スラバヤの交通機関はバス・牛車・自轉車等である。住宅はバンカロー式とする。

稻は年中いつでも植え付けられ、従て、成長の大きさが各田により異り、收穫するには摘穂を行ふ。

サマラングはジャヴァに於ける支那商人の根據地と云はれる。トコ・ジャパンは日本の商家を云ひ、繁盛してゐる。

和蘭人の植民政策の巧智は、土人の獨立力を失はせたと云はれる。(文責記者)

十一月十日 (第四回)

1. 薩摩大隅に於ける薩藩の牧に就て、

兼子俊一

要旨 追つて地理論叢に発表の豫定

2. ライデンの人口密度に就て

大 橋 英 男

ライデンの著 *Die Volksdichte in Belgien, Luxemburg und dem Niederlanden in ihren Beziehungen zur Wohnsdichte und zur Häuserdichte in den drei Staaten.* (Peter. Mitt. Ergänzungsheft Nr. 204, 1929) の紹介を兼ね、特に人口密度、家屋密度、居住密度の三者の關係につき考察せるものである。既に地理學評論第六卷、第十一号に松井勇氏により一通りの紹介はあるが、見様によりては具体的に我々が人口地圖作製の上に一つの範例として挙げ得るものなる故、人口密度の表現方法に観点を置いて紹介したのである。

今、二、三の注意すべき彼の特徴を見るに、先づ第一に、 $VD \parallel ID \cdot WD$ なる人口密度の分析である。彼によれば居住密度とは一定面積内に於ける一家屋平均居住者数をあらはすもので、人口、家屋密度は共に一定面積内の人口数、家屋数をその面積で除したもので、居住密度とは性質が異つて居る。此の点従来 Wagner,

Helmer 等の居住密度とは異なるが、 $VD \parallel HD \cdot SD$ なる公式を成立さす爲めの便宜的な意圖から出たものではないかと考へられる。

次に彼は、人口密度中、分ちて平均人口密度と、又面積的に最も卓越する一の密度階級を *Vorherrschende VD.* と名付け、更に *Vorherrschende VD.* の 50% 以上の面積を含む人口密度階級を合した人口密度値を *überwiegende VD.* となし、三國につきそれぞれその値を求めて居る。従つてこれによつて、先づ平均人口密度と比較し、後の二者のものが百—二百位だと人口の局部的に集積して居る状態が推察出来る。これは、從來密度等に於て單なる町村数からしてその頻度を求めて全体の推察を行つて居たのに對し遙かに勝れた方法と思はれる。何故ならば、密度等は面積的なものであつて、廣狹種々に相混ざるものを数のみにて見て行くは面積的な分布が全然没却されるからである。

兎に角、人口密度を又分拆して行つて次第に純然たる姿に還元して行つたのは確に一の進歩であると思ふ。

3. クリスペンドルフの工業の分布に就て

安藤 經 一

要旨 地球 昭和九年十月号—十年六月号参照

十一月二十四日 (第五回)

1. シュミットの経済地理に就て、 別 技 篤 彦

要旨 地理論叢第六輯参照

2. 飛驒の白川 島 之 丈

白川村の戸数は四五四戸、人口三四九九、一戸當り平均人数は七人で、之れをみては別に大家族ではないが、白川村の中で、土地の人が中切と呼ぶ平瀬・長瀬・御母衣・牧等の家は所謂大家族の部落である。現在大なるものは、

遠山(御母衣) 二二人、山下(長瀬) 二〇人、

三島(木谷) 一九人、大塚(長瀬) 一八人、

を挙げる事が出来る。昔は五十人位の家があつたらしい。斯る大家族が生じたのは、結局白川の流域の谷が狭い事に基くのであらう。其處には小さなファンがあるが、限られた土地に耕地を増す事は出来ない。かやうな事が経済上子供

等に夫々財産其他を分配する事を不可能ならしめ、長男のみに家督を相續せしめ、而も分家を禁ずる事となつた。而も亦出稼もしなかつた。

婚姻関係では長男以外は法律上の結婚をせず内縁関係を結び、而も一緒に住みならず男が女の許に通ふのである。その間に出来た子供は母の手許で育てられる。

家屋に就て云ふと、二階・三階があり、此れ等は盛に利用される。二階即ち一階の天井は竹を以て造つてある。長男一家は一階に住し、二階・三階は他のものが居るらしい。特に興味をひいたのは天地乾元宮造りで、又便所が大変廣い事である。

(文責 記者)

3. マレー半島一瞥

瀧 本 貞 一

前回の南洋視察談のつゞきとも稱すべきものである。

バタビヤよりシンガポールを経てバトパハに上陸した。此の地は日本人南方発展の最初の地で、海岸より河を少し上つた所にある。この河に沿つて水田がある。土人はカヌーを用ひて交通する、流域には猿が多く棲でゐる。

家屋に就て。ジャヴァと同じであるが、だい千本がある。

鐵鑛に就て。スルメダン鑛山は地下百米迄掘れるだらうと云はれてゐる。最初は印度に輸出したが、最近では日本にも輸出する。

ゴムに就て。ゴムの木は四年間で切り下げる。毎朝採取する。十一年間で木と一周する。即ち片方を切つてゐるうちに他方は回復するのである。質により一等品・二等品等が區別される。

聯邦首府クワ、ルムフルに就て。支那人が断然多い。日本人の小学校もあるが極く少い。附近には有名な鐘乳洞があり、又錫が盛に産出せられる。(文責記者)

4. 大垣市を中心とする纖維工業の立地論的研究

田 中 秀 作
秋 山 桓 士

西濃の低地輪中地域に域下町として発達せる大垣市は人口約四萬の勢にあり、小都市であるが、近代の工業殊に綿毛纖維工業の急激な勃興により、其生産總額に於て他の人口十萬以上の都市を凌駕し、更に人口一人當りの工業額を以てすれば、全国中川崎、尼ヶ崎の西大工業都市に亞が笑に第三位の栄冠を戴ち

獲てゐる。現下我國内外の狀勢は纖維工業の經營を益々尖鋭化せしめ、各紡績會社の増鍾又は工場を増設、さては危險分散の爲の多角經營等は皆より深き合理的採算の上に基礎づけられざるを得ざるに至つた。此合理的採算の基礎條件即ち大垣の纖維工業立地因子を考察するに、(1)濕度、(2)豊富なる水力電氣の供給、(3)水量豊富にして良質なる軟水を自噴せしむる西濃特有の堀抜井戸、(4)廣大にして地價極めて廉なる工場用地、(5)水陸交通の至便、(6)京阪神、名古屋兩工業地帶の勢力圈の接觸面に生ずる特有なる兩棲的工業都市的地位、(7)人爲的工業政策の七を擧げることが出来る。斯くの如き好地理的環境が從來何等傳統的技術的關聯を有せざる地域を纖維工業關係の八工場、職工の一萬を擁する本邦有数の近代工業都市に轉向せしめたのである。

5. 商業地理學の一問題

宮川善造

商業地理學の著書は多いが、商業に觸れる處少く、又觸れても商品學的説明に終つてゐる。併し商業に於て最も重大な問題は貿易である。

貿易の狀態を把握する方法として、統計を使用する方法、自然環境即ち大陸

を單元とする方法、海洋的把握の方法即ち大陸と大陸間の貿易をみる方法、其他種々の地理的地帯に依る方法等がある。

概、貿易を支配するものは國際的分業から有無相通ずる事である。斯る考の背後にあるものは、自然的環境が相違し、從て經濟形態が異ると云ふ事である。而して現在の貿易を支配する直接的な原理は資本主義から離れて考へる事は出来ぬ。從て貿易を支配する原理は利潤の追求である。斯る見方から貿易統計を扱へば、地理的でないかも知れないが、一層問題が明瞭になると考へる。

貿易品は國際統計に據て大別して、(一)食料品、飲料品、(二)原料品、(三)完成品の三つに分けられる。かくて、世界貿易をみると、輸入に於て完成品の少い群と、多い群とに分けられる。而して前者は後者に比して極めて少い。輸出の場合はこの反對となる。又、國々を、(一)資本主義國、(二)新資本主義國、(三)資本主義の発達せざる國に分けると、世界貿易總額に於て新資本主義國は支配的である。輸出は工業化し、輸入は非工業化する。其他の國は反對の現象をとる。從て、貿易の方向は資本主義國、非資本主義國、普通の言葉で云へば工業國と原料國間の貿易が支配的である事を知る。又、独占化の傾向も現はれる。即ち資本

主義の極めて發達した一群が、然らざる國を強制的に市場化して居る。更に言ひかへれば、家内工業・手工業は常に圧迫されてゐる事が判る。(文責 記者)

6. 三河地方に於る露人の生活

田 中 博

今夏滿洲農業移民調査の爲、三河地方を旅行された時の觀察談である。

三河地方とは滿洲のコロンバイル北興安省で喀拉布河、得爾布爾河、根河の三河川の流域地方を云ふのである。

此處を旅行して特に感じた事は日本の農業移民を發達させる爲には氣温を關係させて考へねばならぬと云ふ事であつた。

諸、北滿鐵道の沿線には白系露人が居住し、又、此の三河地方には澤山の部落があり、立派な農業を経営してゐる。

三河地方へハイラルから行くには冬期は自動車があるが夏期は無い。そこで露人の馬車で行つた。この沿道附近はステップや白樺の地方で、蒙古人の部落があるが、彼等は水不足のため遊牧生活をなしてゐる。三河地方に入ると、草も今迄とは異り、土地も肥沃らしく、地下水もあつた。此の地方の露人の村の

農業形態は、村を中心とし、其の周囲に放牧地、その外側は牧草地、その外側は森林といふ状態になつてゐる。小麥・燕麥・そば等を作つてゐる。併し彼等は農業中心ではなく牧畜を重んじてゐるのである。家のすぐ周囲には柳の垣を繞らし、又日常の副食物を栽培してゐる。

夏の耕作には非常な労力を要し、子供迄耕作に従事する。それで家畜はツングースに委ね監督させて放牧する。冬期は労力過剰をさける爲、仕切に家畜を入れて飼料を刈るのである。

三河地方には多くの村があるが、三つに分類出来る。一は乾草、二は小麥へ自給自足、三は小麥粉製造の村である。

商人が三河地方に定住するに至つたのは、結局、水を得易い事と、附近の森林から薪が得られる事に原因してゐるのではないかと思ふ。(文責 記者)

7. 民族の移動と順應に就て

田中秀作

民族の移動と順應は植民地理の中の重要な問題の一である。先づ民族移動の時期に就てはハンチントン及ガンカン(H. G. Duncan)は凡そルネッサンスを

界として古期と新期とに分ち前者を民族大移動期となし之を六期に細分し、後者を國際的移住期と稱してゐるが、其の主なる相異點は古期の大群的、爭鬭的、排他的、近接的、陸傳ひ的、永住的なるに反し、新期の小群又は個別的、平和的、文化的、遠隔的、海洋的、一時的又は周期的と變化して來た。而して前者は純地理的要因によることが多いのに對し、後者は人爲的政策的要因に支配せられることが顯著となつたのである。

次に順應即ち狹義の氣候風土順應と社會的文化的順應とを包括して考察するに、ザッパ（*W. Dappert*）によれば、(1)地形に關しては移住地が故郷の風景と類似点を有すること例へば山水の配置、森林の形態等が普通の所謂地理学の地形よりも重要な役割を演ずる。(2)氣候は一般的の氣溫、濕度、恒風等よりも天候の特異性、晝夜の長短、變化に富むか、單調なるか等が故郷のそれと類似するを要し、(3)人的要素としては民族の素質が重きをなし、優秀民族は環境に影響せられることが少なく、寧ろ反對に環境を自らに適應せしめる。又最劣等民族も環境には關係少なく、中間民族が環境に支配せられることが多く、稍劣等なるものが之に次ぐのであるが、概して心理的の要素が強く働くものである。

之を要するに此問題の研究には従來の如き單純なる一般的地理的因子のみを以ては徹底的に説明し能はざる部分が多く、之には民族の素質と環境との相互關係及心理的の考察の必要なるを痛感する。

昭和十年二月二日 (第六回)

1. 鈴鹿地方の農業について

淺井 得一

先づ伊勢地方へ旧伊勢国の大部分なる地域を設定し、其の中主として鈴鹿川の流域に當る地方を鈴鹿地方として區別し、農業上より大小二地域を比較しつゝ鈴鹿地方の特性を明かにしようとする。

鈴鹿地方の農業上の特色と見られるものは次の如くである。(一)古くより農業が発達し土地が開拓された地方ではあるが、しかも尙少なからぬ原野を残す。これ等の原野は概して洪積層より成る台地で、水利の便悪く土壌も良好でない。(二)栽培量が豊富であり、一戸當りの農産物價格も多い。(三)水田の裏作に菜種を栽培すること多く、麥と菜種とほぼ同率に近い。これは菜種の性質として冬季に土地の乾燥せぬ場所を喜ぶからである。(四)伊勢地方全体として茶の生産が多い

のであるが、この地方はその主産地で約五七%を占め、中でも水澤村は伊勢地方の二三%鈴鹿地方の四〇%を産する。この地方は排水よく日射の強い台地丘陵地が多く、それが茶の栽培に適し、また明治初年二三の先覺の努力の結果も今日の隆盛に與つて力がある。

次にこの地方を農業を主として細分すれば、大体四つの地域に別れ、鈴鹿・内部両川下流の水田を主とした沖積平野、鈴鹿山脈東方の養蚕及び茶葉の盛んな丘陵地、鈴鹿川流域の狭長な水田地帯、及び中ノ川・志登茂川の開拓する、水田・山林・桑畑のほゞ相等しく分布する丘陵地となる。

要するに伊勢地方の農業上の特色を最も明瞭にかつ高度に備へてゐるのは、この鈴鹿地方であつて、鈴鹿地方は伊勢地方の農業上の核心とも言ふべき地位にある。

鈴鹿地方は之を行政的に見ると、三重縣河藝郡・鈴鹿郡の全部及び三重郡の中南方の七ヶ村を含む。へ陸地測量部五萬分之一地形圖四日市・龜山・津・久居参照。

2. 矢作川流域平野の農業地理

村本達郎

要旨 追つて地理論叢に発表の豫定

3. 旧城下町に就て

小葉田亮

要旨 追つて地理論叢に発表の豫定

昭和十年度

昭和十年五月四日 (第一回)

1. 植民發向型に就いて

田中秀作

移民活動の本國から他地方へ發展する方向を自然的には本國の位置、環境、人文的には民族性順應性人口的壓迫、發展地の磨擦抵抗等を考慮して分類して試みに凡そ左の如く六つの大きな型を考へて見た。

一、フエニシヤ・ギリシヤ型、ヒンターランドを有せざる狭海岸地帯の民族が海岸傳ひに又島から島へと進み對岸に向ふがエ・鑛・商を主なる生業とする島發展地に於ては海岸のみにて與地に入らざるもので同一氣候帯のエーゲ海又は

地中海等を圍繞する形となる。

二、ローマ型、本據は半島で海洋に恵まれてゐるが相當廣いヒンタールランドを有し主に農耕を以て内陸へ進み海上へも向つたが之は寧ろ對岸の内陸開拓の手段に過ぎず、陸上の交通の発達を圖り廣く異氣候帶へ進出したるもので中央の威力を以てよく全植民地を統制した。

三、モンゴル・タタール型、内陸の草原地帯に發祥し遊牧を本來の生業とし、遊牧地を擴め農耕地を征服し、進んだ文化を求めつゝ内陸的に發展したものである。

四、ゲルマニヤ型、ゲルマニヤの故土からローマの領域への侵入や中政東政へ農耕的開拓を以て盛に民族的發展を行つたゲルマニヤ人は後に中世に至つては北方の海洋を利用しハンザの商人として海上に雄飛した。此場合商業を主とするが彼等の商圏は海岸のみならず内陸深く入込んで至る處に商業都市の聯盟を作つた。後年独逸民族の陸海兩方面への發展の素因となる。

五、イギリス型、島國に本土を有し主として海上に商業交通を以て發展し、他大陸の農耕拓殖にも成功してゐるが、何と言つても古來英人の生命は海洋に在る。

六、ニツボン型、大陸の縁をなす列島を郷土となし古くより大陸と海上の両方面へ而も異なる各種の氣候帶へ同一の重さを以て發展する運命を有す。史的に見て日本民族が政治的に經濟的に絶えず大陸と海洋を目標にしつゝ來たことに就いて詳説の要もあるまい。

2. リツターの功績

野間 三郎

目的論・人間中心・環境論等、彼に於る本質的な問題には觸れず唯彼の功績の二三について述べる。

リツターの地理學に對する寄與の大なりし事は誰しも認める所であるにも拘らず、その解釋は區々であり殆ど一致を見ぬ。之は彼の文章の難澁にして多義なるに由ると共に、他人の理解せし所を根據としてリツターを批判する人が多かつた爲でもある。故にリツター研究に際しては特に批判的に諸家の説を吟味せねばならぬ。

彼の功績として先づ大學に初めて地理學の講座をもつに至つた事があげられる。(1820-59)、當時の世人の地理學に對する尊敬は彼一個人に俟つ所大であ

つた。

次に彼のアフリカ及びアジアが批判的資料を基礎として編まれてゐる事がある。新しき地誌の父又はドイツのストラボと呼ばれた *Strabo* の功績は実に剽竊をされて根本的資料に溯つた事によるのである。故にリッターは最初の人とはいへぬが完全なる資料の蒐集によつて、他書からの轉字の多かつた當時に大なる奇興をなしたと考へられる。

次に彼は從來無批判的に踏襲されてゐた地誌を脱して、地表を構成する諸要素が有機的な關聯に於て形成してゐる、個体としての地域を認識するに努力した。従つて地表區分も人爲的境界によらず、自然地域に分たんとした。尤も實際には殆どプラスチックのみによつて分つてゐるのである。事実彼の地理學への積極的奇興としてプラスチックの研究が挙げられるのであつて、水平及垂直肢節に初めて分ち、地球部分の開放性を論じ、分水界が山脈又は主要山背と必ずしも一致せぬ事を証明し、絶對的及相對的高度の區別をなす等當時傳統的に信ぜられてゐた誤まれる及び不正確なる觀念を打破したのである。

3. 先史時代に於ける採鑛冶金

近藤 忠

世界に於ける銅器文化の推定開始年代の地方的相違を考察し、更に東亞に於ける銅器文化の發生地と其の發展進向の経路の大畧をば現在の銅鑛所在と比較考察す。次に銅の採鑛技術に先駆するものとして歐洲に於ける新石器時代の燧石の採掘技術の發展を簡單に見、本論となる銅の採鑛冶金は時間の都合で他日に譲ることゝした。

六月八日 (第三回)

1. 水産地域に關する二三の問題

山崎 修

水産業の主要部分を構成する海洋漁業地域に於ては、遠洋並に近海漁業地域等があるが、斯る地域的區分は生産活動上無意義である。それは生産物と生産地域との相互關係が、陸産業ほど緊密さを示して居ないからである。

而も海洋漁業が第一次的陸産業と相違する点は、その生産地域の漠然性と移動性を持つる事である。尤も沿岸漁業に於ては陸産業的性質を帯びるが、農業等の如く截然と劃する事は出来ない。而して沖合並に遠洋漁業に於ては、生産

活動は自由となり、従つて生産地域は混雑を來すに至る。斯く海洋漁業には、何等法規的制限を受けない自由生産地域が存在して居り、之が又廣大な面積を占有せる事は、海洋漁業地域の漠然性を助長せしめつゝある根本理由であらうと思ふ。斯る生産地域の漠然性の上に、更にその移動性に至大の關係を持つものは、生産の對象物たる魚貝類の持つ移動性である。其他海流林相の変化等、生産地域の自然的環境の変化並に漁法漁具の改良進歩、漁船の高速化等、その生産方法の変化に依り、生産地域の受ける變動は又大である。

斯の如く海洋漁業地域の漠然性移動性の故に、その生産力は常に安定せず、又生産地域の変容異質化に依る生産額の増大は望まれない。従つて海洋の一部を占有し、之に労働を加へ、之を開拓改變する事に依り、他と區別する利益を生じ得ないのである。

従つてその地理學的現象の分布の如きも、海洋に於ては生産地域に於てなし得ないのみならず、その生産現象を生産地に刻印する事は出來ない。従つて地表に於けるか如き人文景觀の具象的存在は、最早海洋漁業に於ては見られず、例ひ存在するも短期間である。斯くて刻印附けられた人文現象、その累積的具象

物たる人文景觀の時間的变化並にその様相は、吾人の視覚に映じ得ない。従つて海洋漁業の生産活動並にそれに関する地理學的現象の分布の如きは、漁港並に漁村でなされ勝である。

従つて海洋漁業の研究は一方海域の調査と共に、他方漁港並に漁村の水産業化をも合せ考へなければならぬ。斯くて海洋漁業には研究對象に二面性を持つに至る。

2. 章學誠とその方志學

室 賀 信 夫

要旨 追つて地理論叢に発表の豫定

3. 岐阜市近郊の農業地帯

朝 永 陽 二 郎

先づ從來行はれて來た農業地帯の種々の區分法を述べ、而して岐阜市近郊の農業地帯を分けるにはスツデンスキが歐羅巴ロシヤ或はアメリカの農業地帯を區分するに用ひた如く、總ての農業生産を貨幣價值によつて統一し、それ等の相對數を以て行ふとした。

即ち、岐阜市を中心として二〇軒の半径を以て描いた円内に大体入る、一四〇市町村を含む地域を採り、統計は昭和八年度、單位は市町村を用ひ、指標として、

一、全植産額に占むる米の價額の百分比、二、全植産額に占むる麥の價額の百分比、三、全植産額に占むる普通畑作物（エ・食・蔬・果）の百分比

の三つをとり、農業地帯を求めた、而して地帯分けの基準は右の農産價額の支々の平均割合を採り、それを境として上・下に分け、それ以上のものを支々の該當地帯とした。かくて、
1. 米作地帯、2. 麥作地帯、3. 普通畑作物地帯、4. 米麥作地帯、5. 米・普通畑作物地帯、6. 麥・普通畑作物地帯、の六つの地帯を得た。

次に此等の地帯に於ける養蚕部門・工藝農作物生産部門・食用農作物生産部門・蔬菜生産部門・果實生産部門の組合せについて述べ、同じ經營に属する地帯に於てもその位置・地形等により、他の生産部門の組成には相違あることを示し、斯る農業生産部門の組成の相異、農業經營型に作用する要因としては、少くとも、交通位置、土地の自然的性状、企業者の個人的事情が考へらねばな

らぬであらうと結んだ。

六月二十二日 (第三回)

1. 砂丘輪廻の一過程

(新竹州、中壢郡、草漯砂丘に就いて)

庄 司 久 孝

臺灣に於ける砂丘飛砂地は周囲二百九十八里余に過ぎない海岸線の約八分の一を占めて居る。此處に銘んど、固定の途上にある、新竹州中壢郡觀音庄の所謂草漯砂丘を挙げ、當地方に珍らしき形態、即ち卓越風向に垂直なる砂丘群と平行なる砂丘群との存在を解釋せんとしたものである。先づ、主要觀察事項として十項目を挙げ、次に考察として、(1)砂丘後背地の地形地質の概観、(2)砂丘形成に與かる營力として、1. 風、2. 雨量、3. 潮流並びに沿岸流として、卓越風向のNEであること、を表示し、九月より8ヶ月間即ち四月までNE6月かう8月まで、SEの風の卓越、NEに於ける風力7—8秒米、SEに於ける風力3—4.5秒米、雨量十年間平均千七百七十粒、その月別によると降雨月は卓越風(NE)の時に於いて少ない(此事は益々風の猛威を大ならしめるものであ

る一争を云ひ、潮流沿岸流、遠淺海岸即ち上昇海岸である事、河川の氾濫水整る争、地質の軟弱なる争により砂丘形成の妥當なるを述べ、(3)として砂粒及び砂丘生成過程なる主題の下に、垂直砂丘がバルハン型砂丘の結合によりなる事、而してかゝる海岸より或距離の所に移動砂丘が発達、遂に波狀砂丘を形成する事を R. Chudeau. の言や、Brignaut の説或は Aufiere の逆風向砂丘説等を利用して解釋を試み、また本砂丘に就いての特種なる二点として、水の作用、即ち小川等の作用に依るものでないか、また礫層の崖、及び粘土の丘陵の突出がその形態停止に働いて居るのではないかの疑問を述べた、次に垂直砂丘列より、内陸側にある平行砂丘の解釈として先づ汀線、土田等に非ずやとの疑問を述べ、抛物線砂丘の最後の形態、即ち Brignaut, Aufiere の線狀砂丘を襲奪する諸点、即ち 1. 海岸より遠い事、2. 丘陵上にのみ存在し、風の暴力の減少に伴ふ植物の活動力旺盛なる地帯であること、3. 平行なる二つの砂丘よりなつて居る事多い、4. 現に抛物線狀砂丘の形態にて固定せられて居るものがある事に就いてのべた。而して一歩進めて考へれば本砂丘形態は、会てバルハン型砂丘の種々なる形態ではないかと論じて見た。

2. メツキング日本都市景觀

小 葉 田 亮

當論文は、S. Passarge の編輯による *Stadtlandschaften der Erde* 中の一編 *Japanische Stadtlandschaften von Ludwig Mecking* であるが、我々は此の十数頁の中に、地理学大家としての觀察の外に、異國人と

しての夫によつて、教へられる所多きを思ふ。以下之を要約するに際し、便宜上内容を分割し標題を附して記載する。(片假名は原文のまゝの所)

- (1) 都市地理序説。(2) 日本都市の特相、外国都市へ例へばドイツに較べて著しく類型化して居り、又都市と村落との景観上の差異は明確ではない。(3) 都市発達史 (4) 聚落の行政階級(市・町・村) (5) 都市の地形的位置 (6) 都域の地形。(丘陵・河流・海岸線) 微地形によつて都市區域の決定される事多い。之は兩が多いからである。(7) 城下町。土地の小隆起部に都市の発生せる好例である。城址景観。(全クスベテノ此ノ城地ハ私ノ見タ者ハ 今曰デハ兵營ニ轉ジテナル。) (8) 市街の特殊景相(城・寺院・火見) (9) 火事 (10) 家屋 大震災を契機として西洋風の建築が増加して來た。(11) 街路割 大陸傳來の京都型を模して碁盤割が多い。之は漸進的ではなく計画的建設である。然し夫は地形の制約を受ける。(例へば樹枝状緩谷中に發展を餘議なくせしめられる横浜の周縁部は不規則型である) 又、水平的には河流。堀割を左右する。(例、大阪)
- (12) 宅地割 二種ある。碁盤割地區に於る者と、然らざる者である。前者の場合は街路割に應じて、整然たる形態を採る。日本ニテハ古キ内部モ既ニ碁盤

割デアリ、外部が却ツテ群落デアル。後者は町ち都市外縁部で、不規則な群落となり、田舎の中に溶解してゐる。都市圏郭の無い事は、ハゲシイ國內ノ戦争ニ反シテ着シイ現象デアル。

(13) 経済的都市區域　日本の市街は経済的核心を持たなかつた。城郭ハ都市ニ對スル結晶核 (*Kristallisationspunkt*) デハアツタが、交易會合所 (*Verkehrssammelplatz*) デハ無カツタ。又日本の都市は緑地 (*Grünflächen*) を缺いた。個々の家には庭を持つが、東西都市ノ空地。並水路。散歩道等々ノ類ノ如キ大ナル緑化設備 (*Grünlage*) ラ缺ク。たい城下町に城郭はあるが、丈とても過去には市民を自由に近づけなかつた。

商店は相連接して、店先は街路に向つて開放される。多くの街路に面して位置する。近代工場は大都市周縁部に圓く集まるが、二三の大工業の支を除いて多くの工場の規模は小さい。小学校は多く都市の周縁にあり、校舎が目立つて大きく、廣い運動場をとみなふ。酌婦や歡樂郷は全街路に散布されず、日本の都市就中港湾都市では、吉原(遊廓の意味)がある。

二・三の都市はその支配的經濟機構によつて、名有る者がある。(空蘭—石炭

港。鉾子―澳港。甲府―絹織集散。横須賀―軍港。

14) 結び。日本都市は次第に改化しつつある。大都市の現景は、混合された建築様式。舗装道路。西洋同等の交通機関（自動車）等々が相並列して甚だ不調和に感ずる。かの人力車は既に少くなつた。さあれ、周囲の廣狹は別として森閑とした公園。歴史的記念物がある所に、かの懐しい衣服。風俗等を眼にする時は、我々は自ら古代日本の姿を想像し得るのである。

3. 信濃に於ける首邑の変遷

要旨 追て地理論叢第七輯に発表の豫定

米倉二郎

七月一日（臨時談話會）

台湾の話

川上健三

台湾の河川に就て、台湾の面積は三五、七〇万平方呎、斯る面積で百の川を有つ事は台湾の川の第一の特色である。而して此等の河川が急流性なる事は第二の

特色である。川の受ける影響は主として地形と雨量とである。台湾には南北に走る中央山脈がある。従て之れを分水界として横谷が生じてゐる。而も台湾の地形は南北に長く、東西に短い。従て流路の延長は短い。従て急激となる。更に東西の幅員の短い事は流域面積が狭い事となり、延いては多数の川をつくる、更に又台湾全面積の七五%は山地々帯で、此事も急流をつくる原因となる。次に雨量は非常に多い。年平均雨量は二、五〇〇耗で、これは些程多くはないが細分すると多いのである。即ち、火燒寮では年平均雨量は八、四〇七耗へ極東に於ては第一であらう、阿里山は六、〇〇〇耗、大休五、〇〇〇耗以上の處は少くない。而して降水時期は遍してゐる。阿里山に巔起湖（巔はシャベル、湖は窪地の意、湖水ではない）といふ所があるが、こゝでは一日に二〇三三耗の雨が降つた記録がある。雨期には猛烈に降る。台湾では山嶽地帯は一日平均六〇〇耗降る。斯る多量の雨を容れる川は急勾配より平野に出で乱流し、破壊力が非常に大い。其他、台湾の河川は尚四、五の特色がある。(1)は勾配である。急峻で内地とは程度が違ふ。海拔百米迄を河口から計ると、

	西岸			東岸
	曾文溪(台南州)	淡水河	下淡水溪	宜蘭濁水溪
五〇. 軒以上のものは三つしかなく、他は皆五〇軒以下である。極端なのは知本溪で六軒しかない。内地では河口より海拔一〇〇米迄の河川延長は九〇軒で、利根川は二〇一軒である。斯様に台湾の河川は急流であるが、一〇〇米以上は急に三〇〇〇米に登る故更に勾配は急である。即ち、(2)勾配の変化大なる特色がある。山は粘板岩で風化し易い。此等は急に傾斜の変化する附近に堆積する。従て台南州に於ては石がなく、石造の家が出来ず、泥土で家を造り、これが先日の地震の爲に破壊されたのである。(3)洪水量の大なる事。多量の雨が急激に降り、河川は急に平野に出る。従て洪水量は大で、内地に於て洪水量最大といはれる吉野川の五〇万個(毎秒一立方呎の水量が一個)に對し、台湾では濁水溪・淡水河の如きは八〇万個である。而も吉野川の流域面積は三、六五〇方軒に	一三二軒	一三〇〃	一五六〃	六七〃
	八二軒	五五〃	五〇〃	二二〃
			四三〃	

對し、濁水溪・淡水河は三、〇〇〇方呎しか無い。斯く台湾の河川は洪水量に對し流域面積が狭い特色を有してゐる。(14)の特色は洪水量と濁水量との差の大きな事である。内地では三〇〇倍位であるが、台湾ではよく判らぬが一〇〇〇倍位である。これは流域面積の狭い事、森林がよくない事に起因する。従て平水量が貧弱で、台湾河川は航の便なく、又灌漑上良好でない。(15)は乱流する特色を有する。内地にみられぬ乱流がりである。従て橋が掛けられない。自動車が河中を走る時期がある。其他の特色として尚ほ、(16)土砂の流出が多い。(17)改修工事の困難、——殊に急流部は手が殆どつけられない——がある。以上が台湾河川の特色で、これが人文上影響する處は多いと思ふが、これについては未だまとめ無いので他の機會に譲り度い。

台湾の製糖業に就て。台湾製糖業は創始以來未だ三十五年を経たのみであるが、非常な發達を爲してゐる。台湾の製糖業を確立したのは新渡辺博士であるが、博士の先見の明により、台湾では現在、日本の砂糖消費量一五六〇〇万擔^{たん}以上を産出し、製糖業は台湾の重要な産業となつた。而して製糖會社は教育、農業其他台湾文化に大いに貢獻してゐる。扱、台湾の甘蔗糖とビート糖とは大

戦前は半々であつたが、現在は前者二、後者一の割合となつた。而して台湾の製糖業は世界第五位の地位を獲得するに至つた。日本では台湾以外の土地で産する砂糖量は三〇〇万擔で、これだけ余るわけである。斯くの如き台湾製糖業の盛大はその製糖政策による所が大である。製糖會社をつくるには總督府の認可を得る必要があり、許可を得れば、強制的に甘蔗採取區域が決められる。會社は此の區域内の甘蔗のみしか用ひられず、此の區域内の農夫は又その會社以外に甘蔗を賣る事が出来ぬ。これは原料の安定の利益があり、農民は亦その生品の處分が必ず出来る利益がある。而して區域内の甘蔗は必ず會社の手に入る故安心して土地改良施設がどこし得る。斯る事で農民を搾取する事はないかといふとその憂ひはない。一時の利益のために搾取すれば農民は疲弊し、永久の富が得られないからである。これが台湾製糖業を今日あらしめた一つの大きな原因である。

現在製糖會社は台湾に一〇、工場数は四七、南部に多い。甘蔗の圧縮能力は一日五万噸、總資本二億五千萬圓、投資額は三億五千萬圓で、日本有数の大工業と云へる。台湾製糖業盛大の原因は尚二、三ある。第一は原料である。台湾の甘

蔗は優良品（ニ七・二五P・O・J）であるが、これも五・六年後には害虫の爲糖分が減じ駄目となる。來年が最高限で、來々年には品質が落ちる。それで是れに代るべき品種を必死になつて求め、幸ひ最近F・一・〇・八といふのが台湾糖業研究所で育成された。斯く優良品種を常々求めねばならぬ事が台湾糖業の現在をあらしめたのである。第二にはレフレクトメーターを用ひ、甘蔗の糖分の濃度をしるべ、不足のものはもつと育成を待つ様にしてゐる事である。第三は會社の工場施設で、外國の機械の輸入であるが、部分的に改良し、甘蔗内の糖分の九二・一八%の糖分を吸収してゐる。へハワイでは八九・七八%、ジャバでは八六・七五%、台湾産能率のよいのはない。又品質も良好である。第四には生産費の問題である。先述の如く農夫はその甘蔗をその属する區域の會社に賣らねばならないのであるが、農夫が甘蔗を栽培するや否やは政府で命令せぬ。従て會社の甘蔗買上條件は農夫が甘蔗をつくつても引き合ふ丈けでなければならぬ。従つて原料費は高い事となる。これは農民を富まし、率いては製糖業を盛ならしめたのである。

以上の原因により台湾の糖業は今日の盛大を招いたのであるが、然らば將來

は如何、既述の如く現在台湾の砂糖生産額は一五〇。〇——一六。〇万擔である。今後これ以上を増加するとすれば輸出せねばならない、世界で砂糖の必要なところをみると、先づ満洲であるが、併し北滿では砂糖が出来る。支那も外國からは買はぬ様にしてゐる。其他の國々も輸入障壁を設けてゐるので、砂糖の輸出は困難である。そこで台湾では砂糖からアルコールを製造する事を研究し、現在でも糖蜜より製造してゐるが、これは水分が多いので、將來は水分の少ないアルコールを砂糖より造らうと努力してゐるところである。(文責 記者)

二、教室雜記

昭和九年十一月二十四日

文學部各科研究會第一回聯合大會開催さる。當教室に於ても第二回地理學談話會大會を行ふ。講演會に先立ち、樂友會館に午餐を共にし記念撮影をなす。講演會は來會者多数にして空前の盛會なり。出席者は左の通り、

中野竹四郎、田中秀作、藤田元春、小牧實繁、松本博、
三浦信雄、廣瀬淨慈、田中博、岩根保重、太田喜久雄

島 之丈、増田 忠雄、瀧本 貞一、松井 武敏、渡辺 久雄、
 安藤 鏗一、中江 健、角田 文衛、平山 敏次郎、和田 俊二、
 小禁田 亮、篠内 芳彦、山口 平四郎、朝永陽二郎、兼子 俊一、
 近藤 忠、内田 秀雄、西川 榮一、木村 憲治、神尾 明正、
 長谷部 健史、野田 正幸、衣川 芳太郎、米倉 二郎、淺井 得一、
 須藤 賢、西 豊、村上 次男、宮川 善造、織田 武雄、
 庄司 久孝、別枝 篤彦、伊藤 勝作、山崎 修、村井 敏衛、
 土田 英夫、谷淵 梅龜、御子 紫幸一、村本 達郎、野間 三郎、
 外に、小川琢治先生暫時御臨席、尚彦根高商出身秋山恒士氏出席

以上 總計 五二名

昭和十年一月十九日

本年度卒業生豫餞會を西石垣四條下鳥岩樓にて開く。

昭和十年三月三十日

卒業式 地理專攻學生九名目出度卒業

昭和十年四月

本年度講義題目

普通講義

石橋 教授 人文地理學概説（第一部）

小牧 助教授 同 右 （第二部）

中村（新）教授 自然地理學概説

特殊講義

石橋 教授 水上交通地理

小牧 助教授 地誌學の諸問題

小野 講師 地圖學

春本 講師 地形學

演習

石橋 教授

小牧 助教授
——
内外地誌演習

実習

石橋 教授 地理學実習

講 讀

小牧助教

a) Otto Maull : *Geographie der Kulturlandschaft*.

b) Ph. Aubas : *L'Auvergne*

宮崎助教

支那地理書講讀

昭和十年四月二十四日

新入會員歡迎會を河原三條上ル鳥初にて開催す。

五月十一日

石橋博士遷葬記念事業に就き近畿地方在住卒業生の相談會を開く、協議終了
後円山公園内平野家にて一同會食。

五月十七日

春期研究旅行出発、飛騨高山より平湯峠を経て平湯一泊、十八日雨中、中尾峠（千八百米）を越へて梓川畔中湯に出で、上高地温泉に宿泊、十九日焼岳に登り火山地形を見、日本アルプスと大觀す、松本溪間温泉に泊る、二十日長野を経て野尻湖更に沓掛星野温泉に泊る。二十一日佐久平を南下、八ヶ岳火山の東麓を廻つて、甲府に達す。二十二日御坂峠を越へ河口湖山中湖を見

て御殿場に出づ、帰學。

五月二十九日

石橋博士還曆記念事業に関し史学科職員協議會を開く。

五月三十一日

地理學研究室の名義を以て振替口座に加入す。大阪五七〇四七番に決定す。

六月十一日

石橋博士還曆記念會發起人依頼狀發送。

六月二十七日

石橋博士還曆記念會趣意書の發送を了る。

七月一日

春本講師地形學試驗施行、尚四條寺町菊水館に於て同講師の送別晚餐會を催す。同講師は地質學教室の現職を辞せられ今回九州戸畑の明治鑛業株式會社に榮轉されたり。

三、會員消息

會長石橋五郎教授は其の後の経過御良好、來春一月には目出度く還晉に達せらるゝ筈である。

中野竹四郎氏は立教大學教授に榮轉せらる。

田中秀作氏は四月より十月まで内地留學を命ぜられ、當教室に於て主として植民地理に就き御研究中である。

小牧實繁助教授は四月より立命館專門部地歴科に於て地理特論を、岩根保重氏は地理學発達史を擔當する。

太田喜久雄氏五月に結婚する。

長谷川寛治氏三月に結婚する。

海老原治三郎氏六月教室に來訪する。

織田武雄氏四月より関西學院高商部講師を兼任する。

渡辺茂藏氏四月に結婚、六月教室に來訪する。

川上健三氏七月教室に來訪する。

辻田右左男氏二月に地理成績佳良證明書を下附する。

大橋英男氏昨年十一月近衛歩兵第二聯隊に入營する

日下卓藏氏昨年十二月に結婚する。

近藤忠氏東方文化學院京都研究所助手を囑託する。

會員にして本年度の卒業生は、荒木義信、兼子俊一、小禁田亮、谷淵梅龜、土田英之、西川榮一、御子柴幸一、村本達郎、藁内芳彦の九氏である。

土田英文氏新発田商業教諭に赴任する。

西川榮一氏村上高女教諭に赴任、七月教室に來訪する。

御子柴幸一氏同志社大學豫科講師兼同志社中學教諭に任命する。

村本達郎氏は獨逸國立觀光局日本出張所に勤務する。

藁内芳彦氏は京都市立商務學校教諭に任命する。

小田内通敏氏四月教室に來訪する。

本年度新入會員は衣川芳太郎、塩見正三、杉村正治郎、中江健、和田俊二、梁希杰の六氏である。

後記

會報第二號の発行が大変遅れまして申譯ありません。編輯者が微力のために本号も亦満足な結果を得られませんでした。種々御意見、御希望を戴いて完全なものに致し度いと存じます。

本年度から談話會報の内容を次の如く決定致しました。二、三、四、の何れの欄でも結構ですから御寄稿を願ひます。

- 一、談話會報告要旨（千字以内）
- 二、報告（地方在住會員の爲に）（千五百字以内）
- 三、雜文（旅行記・隨筆・感想等）（千字以内）
- 四、文獻紹介（千字以内）
- 五、教室雜記（教室日誌・談話會日誌・教室雜記を含む）
- 六、會員消息
- 七、編輯後記

地方在住先輩の通信がありませんので教室の争の御報告に終つた感があります。

暑中休暇の収穫を談話會で御話を願ひ、或は消息にて戴き度いと思ひます。
次号は石橋先生還曆紀念特別号の豫定です。

昭和十年七月

京都帝國大學文學部地理學教室

地理學談話會

京都市九木町通熊野神社東入

甲 女 堂 印 刷

電話上五一〇三番